



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.1

「公民」で何を学ぶのか

1 「公民」の学習目標と主な学習内容

今日から公民的分野(以下、公民と略す)の学習に入ります。そこで、授業の初めに公民の学習目標と主な学習内容を説明しておきます。

公民の学習目標は、①民主政治の意義を理解すること、②国民の生活の向上と経済活動との関係や、③現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めること、④「現代社会についての見方や考え方」の基礎を培うこと、そして、⑤社会の諸問題について「自ら考えようとする態度」を形成することです(文部科学省「学習指導要領」より)。

上の学習目標に到達するために、公民では、地理と歴史での学習内容をふまえて、より深く現代社会のことを学びます。公民の主な学習内容は「現代社会、政治、経済、国際社会」です。



その内、2年生では、現代社会と経済を中心に学習します。大ざっぱに言えば、①現代社会の特徴と課題、②多様な文化、③現代社会の見方・考え方、④日常生活と経済(財物とお金の動き)との関係、⑤財政(税の使われ方)のはたらき、⑥様々な仕事と産業構造(産業界の仕組み)との関係、などが学習内容になります。

2 現代社会で、自分らしく主体的に生きるために「自分で考える力」をつけよう

私たちが生きている限り、誰でも問題に出会う可能性が常にあります。その「人生の問題」を様々な立場の考え方で、理解し、解決策を考えることが可能です。

しかし、私たちは多くの人々に支えられながら生きている社会的存在です。特に、私たちの暮らす複雑で高度に発達した現代社会では、これまでの時代社会が抱えていた問題に加えて、全く別次元の社会問題に出会うことが予想されます。そんな現代社会で、より自分らしく、社会人として主体的に生きていくためには、社会問題を社会科学的にとらえ、解決策を考えることのできる学力が必要になります。

また、君たちはこれから生きていく上で、自分がどんな行動を取るべきかを迫られる様々な場面に出会うでしょう。そして、14歳以上になると、自分の行動で問題が発生すると「知らなかった」は通用しません。自分の行動に責任を持つことが法的に求められます。行動の結果を予見する義務が課されているからです。責任とは、法律的には、資格を失うとか、自分の財産で償うとか、刑罰を受けることを意味します。

ですから、学ぶ中学生の立場から言えば、公民は「社会人として生きるための基礎的教養」を培うための教科です。大人になるために学ぶ教科だとも言えます。

公民の授業では、基礎的な知識を正確に身につけることと、自分の頭で考えることを、これまで(歴史の授業)以上に君たちに求めていきます。「覚える」ことを目標にするのではなく、知ったこと(知識・理解)を使って「考える力」を自分で鍛える覚悟を持って下さい。「考える力」は、自分で考えない限り身につかないからです。

2年生の「公民」で学ぶ内容

第1章 現代社会と私たちの生活

1節 現代社会の特色と私たち

- 1 グローバル化 — 結びつきを深める世界
- 2 情報化 — 情報が変わる社会の仕組み
- 3 少子高齢化 — 変わる人口構成と家族
- 4 持続可能な社会に向けて

2節 私たちの生活と文化

- 1 私たちの生活と文化の役割
- 2 暮らしに生きる伝統文化
- 3 多文化共生を目指して

3節 現代社会の見方や考え方

- 1 社会集団の中で生きる私たち
- 2 効率と公正
- 3 決まりを作る目的と方法
- 4 決まりの評価と見直し

第4章 私たちの暮らしと経済

1節 消費生活と経済

- 1 私たちの消費生活
- 2 契約と消費生活
- 3 消費者の権利を守るために
- 4 消費生活を支える流通

2節 生産と労働

- 1 資本主義経済と企業
- 2 株式会社の仕組みと企業の社会的責任
- 3 労働の意義と労働者の権利
- 4 働きやすい職場を築くために

3節 価格の働きと金融

- 1 市場経済の仕組み
- 2 価格の働き
- 3 貨幣の役割と金融
- 4 私たちの生活と金融機関
- 5 景気と金融政策

4節 政府の役割と国民の福祉

- 1 私たちの生活と財政
- 2 政府の役割と財政の課題
- 3 社会保障の仕組み
- 4 少子高齢化と財政

5節 これからの経済と社会

- 1 公害の防止と環境の保全
- 2 グローバル化する日本経済
- 3 豊かさと経済

教科書『新しい社会 公民』東京書籍版の目次より